会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（若松町幸自治会②）
2　日時	平成 30 年 9 月 9 日（日）10：00～11：05
3　場所	高砂コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）添田主幹 （環境事業センター）篠田主幹、関原主査 （若松町幸自治会②）参加人数：22 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●計算すると神奈川県内の有料化実施率が 20%程度であり、全国平均と比較し低い状況であるがその理由は。 →横浜市、川崎市についても、過去から有料化を検討していると聞いている。各自治体の考え方もあろうが、実態として県内では４市が有料化である。 ●年間一人あたりの負担額が 1,500 円だとすると我が家の年間負担額は、10,000 円を超える。このお金は何に使うか。 →現段階では基金として蓄え、将来の施設整備等の費用の一部とすることを考えている。 ●税金の二重取りにならないか。 →納税のようにあまねく市民の方へ義務を求めているものではなく、排出量に応じたごみ処理費用の一部を排出者の方へご負担して頂くことから、税金の二重取りとはとらえていない。 ●介護者を抱えている家庭への対応は何か考えているか。 →配慮が必要な方への負担軽減策については、方針決定後に先行市の事例を見ながら制度設計をしていく。 ●31 年度に方針決定とあるが、その場合いつから有料化が開始されるか。 →方針決定後には、先に述べた負担軽減策の他、有料化の手法等、施行に至るまでの細かな制度設計が必要となるので、その期間として２～３年を要すると考えている。 ●ごみの問題は大切だと考えているが、有料化すればごみ問題の全てが解決するわけではない。年金生活をしていると、少額であっても負担を感ずる。 →ごみ処理費用の一部をご負担していくことで、ごみ問題の一部でも解決に繋げていきたい。

	●ある市ではごみ袋に炭酸カルシウムをまぜて環境に配慮している。茅ヶ崎でも環境面で何か考えているか。大気汚染面とか。 →排ガスとして排出される塩化物の低減目的で、炭酸カルシウムが入ったごみ袋は良く目にするところである。焼却施設では、様々な有害物質に対する排出低減策が図られており、排出基準に適合している。一方、有料ごみ袋となった際は、使い勝手や機能性についても検討する。 ●現在の資源物の売上代はどう使っているか。 →売却代の一部を基金として蓄えている。残りの一部は、寒川広域リサイクルセンターにおける茅ヶ崎市分の運営経費として充当している。 ●環境部として使えるお金が３％なのは少ない。 →市では総合計画に基づき長期的な事業計画を立てて、予算要求をしている。平成 30 年度予算においては３％であったとご理解願いたい。一方で、扶助費の増加は数値が示すとおりでる。貴重なご意見として受け賜る。 ●焼却灰を再資源化しているとの説明だが、どんな商品になっているか。 →溶融によりスラグ化し路盤材や人工砂として建設資材、またセメント化し普通セメントとして建築物に使われている。 以上